2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催国として、
日本は政府、地方自治体、スポーツ関連団体、大学、民間企業、NGO/NPO等の力を結集し、
「スポーツの力」を世界の人々に届けていきます。
全ての人がスポーツの力を感じ、体現する機会、環境を創る。
そしてスポーツのインテグリティを守り、健全なスポーツの普及に貢献する。
2020年へ。そしてその先へ。ひとつひとつの積み重ねが、
世界を変える大きな一歩になる。
スポーツの力でよりよい未来を創ります。

NEWSLETTER Vol.8
www.sport4tomorrow.jp/jp/

SPORT FOR TOMORROW

裨益者数実績報告

「スポーツのチカラ」を日本から世界に P.2

News
SFTC交流会2018　開催報告 P.4
第2回SFTC地域分科会 in 関西　開催報告 P.6
認定事業のトレンド P.6
SFTメーリングリスト・SNS活用について P.6
申請可能なスキーム紹介 P.7

Information
Sport for Tomorrowを通じた「持続可能な開発目標（SDGs）」への貢献 P.8
SFTC事務局からのお知らせ P.8

「スポーツのチカラ」を日本から世界に

―スポーツを通じた国際 貢献プロジェクト―

SPORT FOR TOMORROW

100カ国1,000万人の目標達成まであとわずか！数字で見るスポーツフォートゥモロー

裨益者数：**7,083,383人**

= 500,000

2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019―2020

実施国・地域
202

実施件数
4,482

2018年9月末時点（2014年1月～2018年9月累計）

SDGsへの貢献

SFTC運営委員会では2020年以降を見据え、各事業とSDGsの関連性に着目しながらSFTを推進していくことを決定しました。

カナダ　ハンドボール

ブラジル　柔道

ブラジル　ラジオ体操

ウクライナ　柔道

ボスニア・ヘルツェゴビナ　サッカー（マリモスト2017）

ヨーロッパ
1,327
360,021

北米
216
70,020

アフリカ
1,276
788,809
1,852,072

中南米
1,152

アジア
2,663
3,463,274

中東
376
51,937

オセアニア
564
181,874

その他
207
315,337

ジンバブエ　障がい者スポーツ普及講習会

南スーダン　全国スポーツ大会

南アフリカ　サーフィン

キルギス　ドッジボール

カンボジア　体育科教育

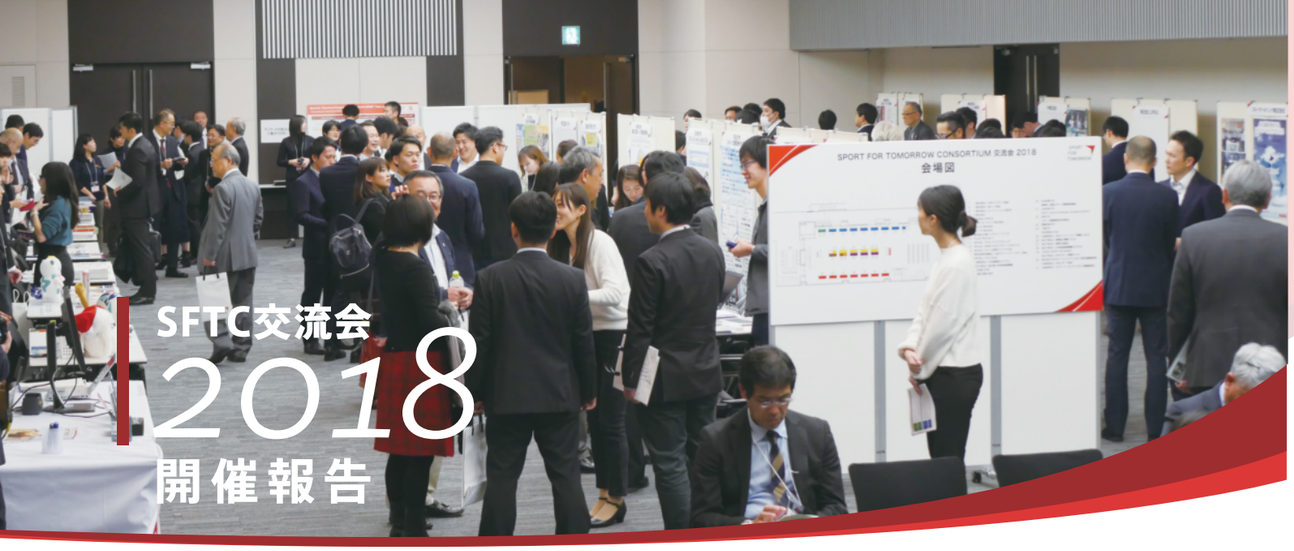
ネパール　野球大会

ブータン　スポーツスクールキャラバン

オーストラリア　空手

裨益者数　地域 プログラム数

※赤丸の大きさはプログラム数に比例
※人型は裨益者数5万人で1つ



SFTC交流会 2018 開催報告

2020東京オリンピック・パラリンピックに向けてSFTのムーブメントをより一層加速させ、質・量ともにスポーツを通した国際貢献・交流を活性化させていくための場として、2018年12月11日(火)に新宿NSビルにて「SFTC交流会2018」を開催しました。
交流会には、会員団体に加えて、入会検討中の団体にも参加いただき、合計73団体・184名が集まりました。

今回は、これまでの交流会で実施してきたブースプレゼンテーションを止め、団体紹介デスクを中心とした新たな試みの実施内容でした。

常設のデスクですので、例年より多くのマッチングの機会として、ご活用いただけたのではないかと存じます。

SFTC事務局では、これからも会員連携による事業の促進に努めて参りますので、「SFTC交流会2018」に参加できなかった団体を含め、マッチングのお手伝いや認定事業申請についてなどお気軽にご相談ください。また、交流会については来年度も実施予定です。ぜひご参加ください。

全体プログラム

全体プログラムとして、「それぞれのアクション"スポーツ×SDGs"」と題した講演を行いました。2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会やスポーツ国際戦略などスポーツ界におけるSDGs推進の潮流を受け、「スポーツ×SDGs」を身近に感じていただき、参加者の方のアクションにつながる機会になっていただけたのではないでしょうか。

冒頭の挨拶では、スポーツ庁藤江陽子審議官にご登壇いただき、「SFTCは立ち上げから4年が経ち、400団体を超える大きな交流の輪が広がりました。2020年に向けて、さらに2020年以降もSFTをレガシーとして、SDGsの達成にも貢献していってほしいです」とのコメントをいただきました。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 アクション&レガシー担当部長 池田孝根様の講演では、オリンピズム・パラリンピズムの精神とSDGsの親和性について、都市鉱山（使用済の携帯電話等）を利用した"みんなのメダルプロジェクト"を例にご紹介いただきました。

株式会社セレスポ コーポレートデザイン室長 越川延明様の講演では、SDGsと関連している自社の事業である"セレスポ陸上クリニック"をご紹介いただきました。子どもたちへのスポーツ普及活動の一環として、セレスポ陸上部に所属する選手のオフシーズンを活用して行っている活動とのこと。

参加者の方は、「持続可能というテーマを優先して捉えることで、見逃していた問題も解決できますね」と、自身が所属する団体でも取り入れたいテーマだと感銘を受けていました。

団体紹介デスク

今回の交流会では、31団体がポスター、写真、商品の展示・資料配付などを通して各団体の活動内容の紹介を行いました。スポーツ関連団体、民間企業、NGO/NPO等、地方自治体・関連団体、大学、運営委員会など様々な団体が、会場にいらした参加者へ向けて、また、団体紹介デスク出展団体同士の情報交換の場として積極的に活用していました。

SPORT FOR TOMORROW

記事・インタビュー

1 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 アクション&レガシー担当部長 池田 孝根 様 からの感想

私どもは、オリンピック・パラリンピックへの関心をより多くの方々に持っていただき大会を盛り上げていくとともに、大会を契機にした様々な取り組みが後世へのレガシーとなるようにしていくことをミッションに据えています。SFTC交流会2018では、SDGsに取り組む初めてのオリンピック・パラリンピックとして、「スポーツ×SDGs」というテーマで私どもの取組みをご紹介させていただきました。こうしたひとつひとつの取組みが大会のレガシーになっていけばと期待しています。TOKYO2020組織委員会は、大会後に解散してしまいますので、私どもの取り組む様々なアクションが大会後にも引き継がれていくためにも、レガシーオーナーを担っていただける方々との繋がりは大切だと考えています。SFTC交流会は、私どもにとっても様々な方々に取組みを共有させていただける貴重な場になっています。

2 株式会社セレスポ コーポレートデザイン室長 越川 延明 様 からの感想

我々の企業からすると、SFTC 交流会は課題の宝庫です。課題というハードルがなければ、社会は進歩しない。参加者の方は、それぞれ社会的意義の高い課題をお持ちなので、ハードルをジャンプする材料になれたら良いと思います。課題解決の一歩が実現できたら、いろいろなことが解決しますよね。さすがに弊社で、全ての課題を一気に解決することはできませんが、可能な限り課題解決の一歩を実現する力になりたいと思っています。

SFTC さんに期待することは、やはり国際交流です。弊社は、海外にあてがないので、我々の力がどう活きるのかを教えていただきたいです。また、「こういう取り組みやリソースはありませんか？」などの呼びかけや、「この地域でこういう課題が発生しました」などの、報告をもっとしてもらえたら嬉しいです。このような交流会の場をたくさん作って下さることはありがたいです。

3 団体紹介デスク出展団体からの感想

- 私たちは、国の機関なので、民間企業の方と情報交換できる場がありません。なので、SFTC交流会は非常にありがたい場だと思っています（**その他**）。
- 初めて交流会に参加したので緊張していましたが、多くの方に話を聞いてもらうことができました。これから、活動の幅が広がりそうです（**NGO/NPO**）。
- 全ての団体の方に挨拶して回りました。多方面でのコネクションができたので、次回もぜひ参加させていただきたいです（**民間企業**）。
- 交流が広がったなと感じました。皆さん、我々の活動に関心を持っていただいていることがわかったので、これから更なる追い上げを見せたいと思います（**運営委員会**）。
- 元々知っていた企業様が海外にも出店されていることを知り、海外での新しいサービス提供の可能性について考えるきっかけをいただきました（**民間企業**）。
- 私たちの事業である2020東京オリンピック・パラリンピックのブームが、これからさらに盛り上がると実感できました（**大学**）。
- 今後、展開していく事業の方針や、民間企業様と、どのような連携をして進めていけば良いかヒントがつかめました（**地方自治体・関連団体**）。
- 交流会の1回目から参加させていただいています。今年は、常設デスクで直接お話を聞いていただいて、1団体、1団体、濃密な時間を過ごさせていただきました（**運営委員会**）。
- 紙面上で、活動内容を知る機会はありますが、直接お会いして、掘り下げたお話を伺う機会がないので、交流会の場に参加できてありがたいです（**運営委員会**）。
- 今まで弱かった企業様とのつながりが、交流会を通して強いものとなったので、参加して良かったです（**大学**）。

4 会場にいらした参加者からの感想

- 私共も、SFTC認定事業の申請をしています。2020年以降もスポーツを通じて、海外でも平和構築の支援を行っていきたいと改めて思いました。
- 私は、食とスポーツをキーワードに活動をしています。活動のアイデアがもらえたらいいなと思って参加した交流会で、新たなソリューションのご提案をいただくことができました。
- 競技としての勝ち負けだけではない、より深いスポーツの理念を知ることができました。私が行っているスポーツは、まだ日本ではあまり知られていません。交流会で学んだことは、そのスポーツを広めるために役立てることができそうです。
- SFTC交流会では、どんなことをやっているのか知りたくて参加しました。新たな企業様との出会いもあり、自身の事業へのヒントをいただきました。

第2回SFTC地域分科会 in 関西　開催報告

2 月 13 日 (水) に「第 2 回スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム地域分科会 in 関西」を開催しました。

分科会ではキーノートスピーチとして、公益財団法人ワールドマスターズゲームズ 2021 関西組織委員会　東直也・競技運営部部長と、独立行政法人国際協力機構　関西センター (JICA 関西) 加藤健･参事役兼市民参加協力課課長からそれぞれご講演をいただきました。

ご講演の内容を受け、「関西でスポーツを通じて SDGs に貢献するには〜ポスト SFT を見据えたスポーツ ×SDGs の取り組みについて」、「WMG2021 関西を活用した関西の活性化及び国際貢献について」、小グループに分かれて参加団体間で活発な議論が行われました。

各団体の現在の取り組みや今後の課題等について共有いただきましたご意見を踏まえ、SFTC 事務局では、2020 年へ向けて今後も会員活動の更なる活性化に取り組んで参ります。

認定事業のトレンド

日頃より、認定事業を実施いただきありがとうございます。
おかげさまで 2018 年 9 月末までの集計で 700 万人を突破しました。
目標達成まで残り 300 万人となりましたが、残り 2 年間でさらに活性化するようこれまでのトレンドをご紹介いたします。

	A 対象事業数	B 事業主体の協働	C 事業主体及び 支援団体の協働	C/A 1事業あたりの 平均連携数
2014年度	13	0	1	0.08
2015年度	76	7	35	0.46
2016年度	160	20	182	1.14
2017年度	140	25	203	1.45
2018年度	105	25	204	1.94
	494	77	625	1.27

※2019年3月8日時点

B 事業主体同士が連携している場合の連携数。(2 団体の場合は 1)
C 支援・協働団体を含む場合の連携数 (4 団体の場合の連携数は 3) ただし、国内の団体に限る。また後援、協力は含まない。

対象事業は実施完了がされており、報告書が提出されている案件のみとした。

会員が 400 を超え、会員の事業数（運営委員会を除く）は年間 150 件程度で推移しています。会員が増えると自ずと事業数が増えると予想がつくのですが、実際は事業数は増えず、連携する団体数が増え、1事業を単体で実施する団体が少なくなっています。
これは、これまで通算で1事業あたりの連携数が 1.27 であったのが、2017 年度（1.45）、2018 年度（1.94）は大きく上回り、複数団体で1事業を運営するような設えが多く見受けられます。
例えば、物資を集めるようなものはそのいい例で、1つの案件に多くの会員が参画できます。このような活動はそれぞれの団体の強み同士を掛け合わせることで実現します。
ぜひ、会員交流会や会員専用サイトを活用し事業形成に役立ててください。

SFTメーリングリスト・SNS活用について

SFTC 会員団体は、会員向けメーリングリスト（全 SFTC 会員団体が登録）・一般向け SNS（Facebook・twitter の SFT アカウント）を活用し、次の情報を発信することができます。

(1) SFT認定事業に対する協力者募集・参加者募集

例）開発途上国に寄贈するスポーツ用具募集、クラウドファンディングの呼びかけ・国際交流イベントの参加者募集など

(2) スポーツを通した国際協力・交流に関するセミナー・イベント情報、リソース提供の呼びかけ

例）スポーツを通した国際協力に関する勉強会や報告会の参加者募集、助成金公募情報など

※詳しくは、会員専用サイト上のファイルストレージから、「SFT メーリングリスト・SNS 活用ルール」をダウンロードいただき、ご参照ください。

申請可能なスキーム紹介

SFTC 会員団体の皆様がスポーツを通じた国際貢献・交流活動を行うにあたり申請いただけるスキームを、国際交流基金による助成金を中心にご紹介いたします。

各スキームの詳細については実施団体のホームページ等をご覧ください。
・国際交流基金：https://www.jpf.go.jp/j/program/
・自治体国際化協会：http://www.clair.or.jp/j/cooperation/model/
・日本国際協力システム：https://www.jics.or.jp/jigyou/ngo/

	ASEAN諸国でスポーツを含む日本文化の紹介や交流事業を実施する場合は…		
スキーム名	アジア・市民交流助成	アジア・文化創造協働助成	アジア・フェローシップ
実施団体	国際交流基金	国際交流基金	国際交流基金
対象期間	2019 年 10 月 1 日以降に開始し、2020 年 3 月 31 日までに完了する事業	2019 年 10 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日に開始され、2020 年 9 月 30 日までに完了する事業	2019 年 12 月 1 日～ 2020 年 5 月 31 日に開始され、2020 年 9 月 30 日までに完了する事業
応募期間	2019 年 6 月 3 日（必着）	2019 年 6 月 3 日（必着）	2019 年 6 月 3 日（必着）
対象事業（抜粋）	ASEAN 諸国・日本において実施される市民レベル・地域レベルの交流事業。日本からの参加者があれば多国間の交流事業も可。	ASEAN10 か国・日本を主対象とする芸術・文化、スポーツ、知的交流分野の人材育成、ネットワーク形成、基盤強化、共同制作や共同研究などの協働事業及びその成果発信事業。	ASEAN10 か国・日本を対象とする芸術・文化、スポーツ、知的交流分野における調査・研究・創作・ネットワーク構築などの活動。
申請資格	日本に活動拠点をおく団体。（海外からの申請については、ASEAN 地域に所在する国際交流基金海外事務所で応相談） 国内：○　海外：△ 団体：○　個人：×	ASEAN10 か国又は日本に活動拠点をおく団体。 国内：○　海外：○ 団体：○　個人：×	ASEAN10 か国または日本に居住し、それらの国の国籍･市民権･永住権の保持者。 国内：○　海外：○ 団体：×　個人：○

	海外に指導者を派遣して スポーツ関連事業を実施する場合は…	自治体と連携して国際協力事業を 実施する場合は…	NGO・NPOが国際協力事業を 実施する場合は…
スキーム名	海外派遣助成	自治体国際協力促進事業 （モデル事業）	NGO 支援事業
実施団体	国際交流基金	自治体国際化協会	日本国際協力システム
対象期間	2019 年 10 月 1 日～ 2020 年 3 月 31 日に開始・完了の事業	2020 年 4 月～ 2021 年 2 月に実施する事業	2020 年 3 月～ 2021 年 3 月 31 日に開始・完了の事業
応募期間	2019 年 6 月 3 日（消印有効）	9 月頃～ 11 月下旬頃	2019 年 6 月に告知、7 月～ 8 月に申請受付（予定）
対象事業（抜粋）	スポーツを含む日本文化に関する講演・デモンストレーション・ワークショップ等。	姉妹・友好提携関係を活かした協力や、将来的な技術・インフラ移転を見据えた協力など、地方自治体や地域国際化協会などが主体となって取り組む国際協力活動の中から、先駆的な役割を果たす事業。	開発途上国におけるスポーツを手段として活用した開発事業（教育活動促進、ジェンダー対応、国民融和等）で継続性、自立発展性が認められるもの
申請資格	"(1) 海外から招請を受け、国内を拠点に活動している日本国内の団体又は個人。 (2) 上記団体・個人の海外での文化芸術事業を企画・制作する日本国内の団体。" 国内：○　海外：× 団体：○　個人：○	日本の地方自治体、地域国際化協会、自治体または地域国際化協会と連携するNGO・NPO。	(1) 主たる事業として開発途上国における開発協力援助活動等を行っていること。 (2) 発足後 3 年以上の活動実績を有し、主たる事務所を日本におく団体で過去 3 年間の年間事業規模の平均が 6000 万円未満であること。 国内：○　海外：× 団体：○　個人：×

外務省では競技団体を対象に, スポーツ関係者の海外派遣や海外からの招へい､中古用具の寄贈などを行う『スポーツ外交推進事業』を実施しています。また、内閣官房オリパラ事務局では 2020 年の大会開催に向け、参加国・地域との相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として全国各地に広げる取り組みを行っています。SFTC 事務局では、スポーツを通じた国際協力・国際交流実施に関する SFTC 会員団体からのご相談を随時お受けしております。

Information

Sport for Tomorrowを通じた「持続可能な開発目標（SDGs）」への貢献

スポーツ×「SDGs」

持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals/SDGs）は、17 のゴールと 169 のターゲットからなる、国連加盟国が 2016 年～ 2030 年の 15 年間で達成するために掲げた目標です。2015 年 9 月の持続可能な開発サミットにおいて採択されました。

さらに、国連では、スポーツが SDGs を達成するための費用隊効果の高い重要かつ強力なツールとして認識されています。

この世界的な潮流を受けて、SFTC 運営委員会では 2020 年以降を見据え、各事業と SDGs の関連性に着目しながら SFT を推進していくことを決定しました。

（参考）SDGs（エス・ディー・ジーズ）とは？
17の目標ごとの説明、事実と数字
国連広報センター　http://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/31737/

認定事業申請・報告では「関連するSDGs」をご記入ください。

最新の認定事業申請書・報告書フォーマットには、「関連する SDGs」を選択する項目が設けてあります。SDGs の 17 の目標のうち、申請される事業と関連した目標がありましたら選択をお願いいたします。複数選択いただくことも可能です。

SFTC事務局からのお知らせ

事務連絡ご担当者の登録・更新

SFTC ご入会時に登録いただいた「事務連絡担当者」が変更になった場合、速やかに会員専用サイト上にて更新をお願い致します。事務局からの大切なお知らせが遅れたり、届かない場合があります。

ご担当者の変更等で会員専用サイトのアクセスに必要な ID やパスワードが分からなくなったなどのお問い合わせをいただいております。その場合には、下記の当事務局お問い合わせ先までメールにてご連絡ください。更新に必要な手続きについてご案内差し上げます。

認定事業終了後の報告手続き

認定事業終了後、会員専用サイトから報告手続きをお願い致します。会員専用サイトからの報告をお勧め致しますが、SFTC公式ウェブサイトからダウンロード可能な報告書のフォーマットを使用してもご提出いただけます。ご報告いただいた事業については、「100か国・1000万人」の中にカウントさせていただくのみならず、SFTC公式ウェブサイト上でも紹介しますので、ぜひご協力をお願い致します。

報告時にお送りいただく写真については、SFTC公式ウェブサイト上の活動レポートの他、様々な媒体で公開される可能性があります。集合写真のみならず、スポーツをしている際の動きや表情のある写真もぜひお送りください。

日本スポーツ振興センターのセキュリティ上、各団体様が使用されているオンラインストレージに当事務局からアクセスできない場合があります。その場合には会員専用サイトの「ファイルストレージ」を使用し、当事務局への共有をお願い致します。使い方などご不明な点がございましたら、ご連絡ください。

SPORT FOR TOMORROWホームページにて、最新のお知らせや事業レポートなどを掲載しています。ぜひご覧ください。　http://www.sport4tomorrow.jp/jp/

各種お問い合わせは、下記スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局までお願いいたします。

発行日：2019年3月31日

SPORT FOR TOMORROW
スポーツ庁委託事業

スポーツ・フォー・トゥモロー・コンソーシアム事務局
〒107-0061　東京都港区北青山2-8-35
独立行政法人日本スポーツ振興センター 情報・国際部内
TEL: 03-6804-2776　FAX: 03-3403-1570　Mail: sft.info@jpnsport.go.jp

この印刷製品は、環境に配慮した工場で製造されています。
GREEN PRINTING JPPI
P-D10004
本社・本社工場